

令和2年定例会 12月定期議会

産業建設常任委員会調査報告書

令和2年12月18日

産業建設常任委員会

産業建設常任委員会 活動状況

〔報告期間〕 令和2年9月4日～令和2年12月3日

日時	活動区分	内 容	頁
9.4(金) 15:13～15:50	協 議	<ul style="list-style-type: none"> ■ 9月定期議会中における調査事項について ■ 決算審査特別委員会における副委員長の選任について 〔出席者〕 氏家委員長ほか委員6名	—
9.9(水) 9:58～14:48	所管事務調査① (議案調査)	《建設部》 <ul style="list-style-type: none"> ■ 一般会計補正予算について ■ 登米市市営住宅条例の一部を改正する条例について 《産業経済部》 <ul style="list-style-type: none"> ■ 株式会社とよま振興公社の経営状況について ■ 一般会計補正予算について ■ 宅地造成事業特別会計補正予算について 〔出席者〕 氏家委員長ほか委員7名 建設部 千葉部長ほか6名 産業経済部 阿部部長ほか7名	—
9.14(月) 9:58～16:20	所管事務調査② (議案調査)	《農業委員会事務局》 <ul style="list-style-type: none"> ■ 所管事業の令和元年度決算について 《建設部》 <ul style="list-style-type: none"> ■ 所管事業の令和元年度決算について ■ 立地適正化計画について 〔出席者〕 氏家委員長ほか委員7名 農業委員会事務局 田辺局長ほか1名 建設部 千葉部長ほか6名	—
9.16(水) 10:00～13:23	所管事務調査③ (議案調査)	《産業経済部》 <ul style="list-style-type: none"> ■ 所管事業の令和元年度決算について 〔出席者〕 氏家委員長ほか委員7名 産業経済部 阿部部長ほか7名	—
	協 議	<ul style="list-style-type: none"> ■ 委員会報告について 〔出席者〕 氏家委員長ほか委員6名	—
9.30(水) 9:30～10:00	所管事務調査④ (現地調査)	《建設部》 <ul style="list-style-type: none"> ■ 要望箇所の現状把握 登米町峯畑地区 〔出席者〕 氏家委員長ほか委員6名 建設部 菅原次長ほか6名	5

日時	活動区分	内 容	頁
9.30(水) 10:10~14:30	所管事務調査④ (議会による事務事業評価)	<p>《産業経済部》</p> <p>■議会による事務事業評価について (現地調査)</p> <p>①木工芸担い手育成支援事業 ②ビジネスチャンス支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価対象事業の現状把握 ・事業対象者と情報交換 <p>[出席者] 氏家委員長ほか委員6名 産業経済部 阿部部長ほか7名 津山木工芸品事業協同組合 佐々木理事長ほか2名 地域おこし協力隊 井上氏、入岡氏 石堂ファーム 石堂氏</p>	—
		<p>■議会による事務事業評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員間討議 ・委員会評価 <p>[出席者] 氏家委員長ほか委員6名</p>	—
10.6(火) 13:30~16:30	所管事務調査⑤ (現地調査)	<p>《宮城県東部土木事務所登米地域事務所》</p> <p>■宮城県東部土木事務所登米地域事務所の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度年次計画事業 <p>(現地調査)</p> <p>みやぎ県北高速幹線道路(紫雲山大橋)の進捗状況 県道新田米山線(新田地内)の進捗状況 南沢川河川改修(横山地内)の進捗状況</p> <p>[出席者] 氏家委員長ほか委員7名 宮城県東部土木事務所登米地域事務所 本郷所長ほか5名 建設部 千葉部長ほか6名</p>	6
10.26(月) 13:30~14:30	所管事務調査⑥ (議会による事務事業評価)	<p>■議会による事務事業評価について</p> <p>①登米市産食材利用促進販路拡大事業 ②ビジネスチャンス支援事業 ③木工芸担い手育成支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価結果の確認と提言作成 ・委員間討議 	—

日時	活動区分	内 容	頁
11. 10(火) 13:30~15:30	意見交換会①	<p>■農業委員会農政改革特別委員会との意見交換会 〔出席者〕氏家委員長ほか委員7名 農業委員会農政改革特別委員会 上野委員長ほか7名 農業委員会事務局 佐藤次長ほか2名</p>	9
11. 16(月) 15:30~17:30	意見交換会②	<p>■登米市産業振興会との意見交換会 〔出席者〕氏家委員長ほか委員6名 登米市産業振興会 山田会長ほか12名 産業経済部地域ビジネス支援課 佐藤専門監ほか2名</p>	13

産業建設常任委員会 活動概要

【所管事務調査④】

1. 期 間：令和2年9月30日(水) 午前9時20分～午前10時00分
2. 場 所：登米町峯畑地区要望箇所
3. 事 件：(現地調査)「道路改良工事実施に関する要望書」の現状把握
4. 出席者：委員長 氏家英人、副委員長 熊谷和弘
委 員 上野晃、關孝、浅田修、相澤吉悦、及川長太郎

(建設部) 建設部次長 菅原和夫、建設総務課長 伊藤勝、
道路課長 星洋徳、道路課課長補佐 福泉淳、
住宅都市整備課長 千葉伸一、都市政策専門監 三浦訓徳、
建設総務課課長補佐 佐藤信昌

(議会事務局) 局長補佐兼係長 千葉敬子

5. 概 要：

8月7日提出された、道路改良工事の実施に関する要望書(峯畑区長 金田忠男、峯畑町内会長 金森久弘、峯畑実行組合長 加藤修)の内容について、現状を把握するため現地を調査した。

道路改良工事実施に関する要望書

登米町峯畑地域内の幹線市道の改良事業の実施と、国道342号線への乗り入れ交差点の改良工事実施について要望するもの。



峯畑地域の幹線道路の舗装整備を要望。国道との安全な接続についても要望。

○要望書の取り扱いについて

現地調査の結果、市の道路整備計画の路線評価からしても道路整備の優先順位としては低く、地域での道路維持管理が適切に行われており、早急に整備すべき路線ではないと判断。市内では同様の要望が多いことから、農道整備事業として、市域全体での整備を検討すべきである。

今回の要望書については、配付にとどめることに決定した。

【所管事務調査⑤】

1. 期 間：令和2年10月6日(火) 午後1時30分～午後4時30分

2. 場 所：宮城県登米合同庁舎大会議室、市内現地

3. 事 件

＜宮城県東部土木事務所登米地域事務所＞

(1) 宮城県東部土木事務所登米地域事務所の事業について

・令和2年度年次計画事業

(2) 現地調査

・みやぎ県北高速幹線道路（紫雲山大橋）の進捗状況

・県道新田米山線の進捗状況

・南沢川河川改修及び災害復旧工事の進捗状況

4. 参 加 者：委員長 氏家英人、副委員長 熊谷和弘、
委 員 上野晃、關孝、浅田修、相澤吉悦、熊谷憲雄、及川長太郎

(建 設 部) 建設部長 千葉清、建設部次長 菅原和夫、建設総務課長 伊藤勝、
道路課長 星洋徳、住宅都市整備課長 千葉伸一、
都市政策専門監 三浦訓徳、建設総務課課長補佐 佐藤信昌

(県東部土木事務所) 登米地域事務所所長 本郷雅俊、
副参事兼次長（総括担当） 後藤昭彦、
技術副参事兼次長（総括担当） 菅原幸也、
技術次長（企画担当） 小池隆則、
道路建設班技術主幹（班長） 森俊哉、
河川砂防第一班技術次長（班長） 保土原真

(議会事務局) 局長補佐兼係長 千葉敬子

5. 概 要：(別紙のとおり)

6. 所 見：(別紙のとおり)

《宮城県東部土木事務所登米地域事務所》

■令和2年度事業について

今年度は震災復興計画の最終年度にあたり震災復旧事業の総仕上げの年となることから、復興事業の一日も早い完了を目指し取り組むとともに、引き続き、登米地域における社会資本の拡充と適切な施設の維持管理に努める。

《令和2年度主要事業》

- ①広域道路網の整備
- ②地域の円滑な交通と安全で安心な通行を確保する道路整備及び管理
- ③総合的な防災力の強化



県土木の事業説明の様子



R2管内事業について説明する本郷所長

(現地調査)



佐沼小児童が書いた橋名板。開通後はじっくり見られない。



紫雲山大橋上で進捗状況について説明を受ける。



みやぎ県北高速幹線道路全線開通は2021年度末。



長年の整備要望が動き出す新田米山線。



令和元年東日本台風に伴う災害復旧工事や河川改修工事が進む横山地区。

○所見

毎年、春に行ってきた宮城県東部土木事務所登米地域事務所と当委員会との意見交換会、現地視察等、地域課題共有の取り組みは、今年は新型コロナウイルス感染症の影響から10月にずれ込んでの実施となった。

まず、県登米合同庁舎にて令和2年度の登米地域内における県の各主要事業の進捗状況等の説明を受け質疑応答。当常任委員会委員からは、みやぎ県北高速幹線道路についてはⅢ期区間（佐沼工区）の進捗状況、また、現在、整備計画から外れているⅤ期区間（北方バイパス区間）整備の再検討については特に強い要望を行なった。その他、県管理道路等、交通安全施設整備をはじめ豊里大橋橋梁耐震補強事業、長沼川河川改修事業や夏川、南沢川など国土強靱化の推進に伴う河川の適正管理について活発な意見の交換を行った。

現地調査では、完成間近なみやぎ県北高速幹線道路（紫雲山大橋）を歩き、長沼ダム関連事業で未だ懸案となっている県道新田米山線の進捗状況、そして南沢川河川改修及び災害復旧工事の現状を視察調査した。

県においては、令和元年10月の台風19号による被災箇所の早期復旧、広域道路網や長年の地域要望である新田米山線の早期着工などの県道整備、登米地域の安心安全な交通と通行を確保する道路整備及び管理を、登米市と足並みを揃えて更に事業推進されたい。

産業建設常任委員会 活動概要

【意見交換会①】

1. 期 間：令和2年11月10日(火) 午後1時30分～午後3時30分
2. 場 所：中田農村環境改善センター 多目的ホール
3. 事 件：農業委員会農政改革特別委員会との意見交換会
4. 出 席 者：委員長 氏家英人、副委員長 熊谷和弘
委 員 上野晃、關孝、浅田修、相澤吉悦、熊谷憲雄、及川長太郎

農業委員会農政改革特別委員会
委員長 上野栄公、副委員長 佐藤久順、
委 員 高橋清範、門馬一郎、五十嵐幸喜、田島幹雄、
芳村忠市、小野寺義幸

(農業委員会事務局)次長 佐藤達也、局長補佐兼係長 小林仁、主幹 及川誠
(議会事務局)局長補佐兼係長 千葉敬子
5. 概 要：(別紙のとおり)
6. 所 見：(別紙のとおり)

■農業委員会農政改革特別委員会との意見交換会

○概要 要

地域での人・農地プラン実質化の取り組みが円滑に進められるよう、担い手の確保や担い手の集積・集約化について相互理解を深めることを目的に、登米市農業委員会農政改革特別委員会と意見交換を行った。

(現状)

「人・農地プラン」は平成24年度から市内全域で取り組んでいる。コロナの影響で、地域の話し合いはこれから進めていく。

意見交換 『人・農地プランの実質化について』

①担い手の確保 ②担い手の集積・集約化

(主な意見)

- 人が動かないと農業は動かない。人とのつながりが大事。
- 高齢化が進み、担い手いない。地域の色分けてして実質化していく作業をこれから進めていく。将来、この地域の農業を、誰がやるのか心配である。
- 農家アンケートを行った所、豊里・米山・南方は後継者がいる。迫・中田では後継者の確保が必要。東和・石越では後継者確保が急務という結果が出た。後継者確保が難しい。第一次産業である農業、市の基幹産業である農業を守っていくため産業建設常任委員会でも協議、要望して欲しい。
- 地域で座談会をすると、集まるのは高齢者。アンケートをして、地域を色分けするところまではできるが、中心経営体がないとその先に進まない。新規就農者、後継者を育てていかないと続けられない。
- 長野県で全国から農業女子を呼び寄せ、受け入れている。かつて米山で全国から農業研修生を受け入れ、その研修生が結婚し、その息子さんが現在農業委員をしている。地方への定住促進、登米市でも考えて欲しい。昭和の頃、若者が合宿しながらまちづくりに関わる建設班があった。そのような市独自の施策を行政が先頭に立ってやって欲しい。
- 米山は受け手が多く、集落に一つずつ法人があるが、この頃は規模拡大をストップしている法人もある。法人の子供達も継がない。法人化して働く身分を確立しているのは良い。
- 圃場環境が良いが、この頃は2～3町歩の委託が増えている。これまで働いていた世代が出来なくなる。圃場分散、中間管理機構、再圃場整備、再集約。若い世代へアピール。手作業では若い人やらない。

- 「田舎に住みたいランキング」登米市もやっているが、人を寄せる取り組みとしてを良い形でプラン実現の方向へ持っていきたい。
- 圃場整備で、世代が替わった時話し合いができ、集積化が進んだ例が有る。登米市は整備が進んでいる。
- 今の農地、今の担い手でできるかと言うと、難しい。人・農地プランは国の政策だからではなく、皆で成し遂げなければならない計画だ。
- 農家を継ぐ補助メニューの充実を。人・農地プランの実質化、まずは「人」。最重要課題である。
- 農業に興味を持って欲しいと思っても難しい。若い世代にスマート農業を見せ「すごい！」と感じてもらうことが必要である。集積化で良い条件となるよう圃場整備も進めて欲しい。

(委員の意見)

- 後継者不足は、これから深刻になる。基盤整備がなされている地域はよいが、未整備や小規模面積の地域では農地が遊休化している。土地改良区や森林組合と連携して、経営維持していくことが必要。
- 農業は、どのくらいやれば収支が間に合うのか。水田と野菜、水田と果樹等、経営がプラスになる農業を展開していかねばならない。
- 担い手不足は、今始まった事ではなく、我々若い頃から言われていた。水田と畜産等、儲かる農家には後継者が育つ。兼業農家が伸びていくと思う。
- 補助金を受けても、その後儲けて行かないと続かない。そうすると法人化や会社と言う形になる。中間管理機構では支えきれない。「農業の事なら米山に聞け」と言われたが、会社組織と同じ基盤にしないと維持できない。5年後は良くても、その先が見通せない。魅力ある農業に向かっていかねば。
- 登米市で何人の担い手が必要か。田んぼをどの大きさにすれば担い手に頼めるか。本当に集約しなければならないのか。田んぼをいくらやれば食べて行かれるのか。担い手の人達も借金を抱え、やめるにやめられない状況。法人だから良いものでもない。法人化して解散するのはとても難しい。地域の農業守れなくなる。
- 交換分合について分かりやすいシステム作れないか。集積の仕方、良い方法考えられないか。
- 農業委員の仕事が広がった。行政が明確な目標を持って取り組む必要がある。人・農地プランは、担い手だけでなく、農家の息子達や若者の意向を聞く等もっと現実的な話し合いが必要。2町歩田んぼに基盤整備すれば機械化が進む。ドローンやGPS等のモデル事業で、機械会社や専門学校等若者が集まり、働く場が増える。
- 登米市は、平坦地と中山間地と、全国の縮図。ここで農業ができれば全国どこでも農業ができる。

- 市内に農地はあっても、多くの若い世代は野菜が作れない。食べ物を作る技術や価値をどうつなげていくか課題だ。
- 息子に農業どうするかと尋ねるが、正直、会社勤めを辞めてすぐ農業をすることは望まない。会社勤めと農業の収入の差、魅力ある農業には複合化が必要。
- 圃場整備して大きくすると、農業機械の性能向上し農作業の効率は上がる。
- 地域おこし協力隊が農業に関わるシステムも有効。よそ者の大規模農業や園芸をやりたい等をバックアップする。
- コロナで若者が田舎に行きたいと新聞記事を見た。農業も林業も漁業もやりたい人がいる。いかに若い人を呼ぶか。幸福感も高まる。
- 稲作はゼロスタートだと初期投資が必要。ノウハウ、土地、機械等産業の中でお金がかかる分野で新規参入が難しい。農業は個人では難しいが、5～6人集まるとできる。法人化等の相談窓口の充実を。荒れ地の不動産投資信託等、資本を集めて法人が運用し出資者へ配当する不動産投資は考えられないか。
- 担い手確保のためには、儲かる農業、かっこいい農業が必須。再圃場整備やスマート農業等取り組みを進めていく。
- 人・農地プランの実質化は、市内一律に中心経営体での集積を進めるのではなく、担い手がいる地域はその方法で、担い手がない地域は家族農業でと言うように、地域毎にそれぞれの形態で農業を続けて行かれるよう柔軟に進められたい。
- 新規就農は、住宅と農地等最大の条件を提示するなど手厚くする。経営などで、儲かる農業をバックアップする。



○所見

『人・農地プラン実質化について』①「担い手の確保」、②「担い手の集積・集約化」の2点について意見交換を行った。農業委員の皆さんからは「地域で座談会をすると、集まるのは高齢者。アンケートを行い、地域を色分けするところまではできるが、中心経営体がないとその先に進まない。したがって新規就農者、後継者を育てていかないと農業を続けられない」。また、「若い世代によるスマート農業を推進するため圃場整備を実施し、集積・集約化を進めるべきである」など様々な意見が述べられた。

「人・農地プラン」の取り組みについては、地域での話し合いが必要不可欠であるが、コロナ禍で多くの農業者などを集められないため、農業委員、農地利用最適化推進委員などを中心に意見聴取を実施しているのが現状である。さらにスケジュールについても当初の計画より遅れているとのこと。

このようなことから、県へのプラン提出に向けて、市がさらにリーダーシップを発揮するとともに、関係機関が力を合わせ、しっかり取り組むべきと考える。

産業建設常任委員会 活動概要

【意見交換会②】

1. 期 間：令和2年11月16日(月) 午後3時30分～午後5時30分
2. 場 所：ホテルニューグランヴィア
3. 事 件：登米市産業振興会との意見交換会
4. 出 席 者：委員長 氏家英人、副委員長 熊谷和弘
委 員 上野晃、關孝、浅田修、相澤吉悦、及川長太郎

登米市産業振興会
会長 山田正、副会長 伊藤秀雄、佐藤修、総務企画委員長 及川健一、
会員 佐々木拓朗、太田陽平、尾形晃、阿部泰彦、遊佐勝則、
後藤康治、深瀬明彦、佐藤秀晴、二階堂玲子、佐藤幸一

(産業経済部) 企業立地推進専門監 佐藤貴光、
地域ビジネス支援課地域ビジネス支援係主幹兼係長 伊藤達也、
地域ビジネス支援課主事 二階堂悟

(議会事務局) 局長補佐兼係長 千葉敬子
5. 概 要：(別紙のとおり)
6. 所 見：(別紙のとおり)

■登米市産業振興会との意見交換会

○概要

市内企業の現状及び課題、委員会活動等について相互理解を深め、企業活動や地域経済の活性化を目的に、登米市産業振興会との意見交換を行った。

◆ 『登米市産業振興会活動報告等について』

産業経済部地域ビジネス支援課 二階堂主事



◆ 『新型コロナウイルス対策について』

(主な意見)

- 商業支援策であるプレミアムクーポン券をもう一度やって欲しい。コロナの影響が長引いており、お客が戻らない中であって商店にとって有効。今後、休業や廃業が出るのではと心配である。
- 県北の上海の飲食店では、対策が徹底している所と不十分な所が混在している。感染対策を徹底していく。
- 市内飲食店への対策の基準づくりが必要。「気にし過ぎ」と言われるが、基準があれば、それに沿った対策が各店舗で取られる。今感染者が出ていないが、発生すれば後手後手になる。
- 今は、クラスターが心配だから飲食店に行かない状況。飲食店では、自助努力で対策すべき。県基準があるので、それを守っているかどうか点検し情報公開し、それを見て来店飲食の判断とする。そうすれば、対策する飲食店が増えて来るのではないか。
- 県基準を満たしてる店には県のマークがある。更に市の認証を行うと良い。
- 地域クーポン券の動き、宮城県は遅い。
- 地域クーポン券などの情報が市民・事業者に行きわたっていない状況。市から情報を出して欲しい。
- 製造業では、社内のソーシャルディスタンスをとり、出張は控え、社外・社内の会議はリモートで行っている。アクリル板設置の経費を抑えるため、ビニール等で自前で対策している。
- 感染防止対策は、事業者や商店・飲食店は自前で行い、市が行うのは高齢施設等とメリハリをつけ、陽性者を出さない取り組みをとって欲しい。
- 運送業では、トラックドライバーのマスク・手指消毒の徹底を行っている。観光バスも5分に一回換気できる車両で、2席に一人乗車で運行している。バスは安全であるので、安心して利用して欲しい。



◆その他

- 中心拠点施設整備について、第二次総合計画基本計画にコンパクトシティが少し入っているだけ。市長は2年前から考えていたと言うが、議会はどうか考えているか。
- 物産振興と販路拡大は、行政と民間の連携が必要。朝ドラも来るので、食材の宝庫を活かし、行政とタイアップした取り組みで、販路拡大を。
- 産業振興条例を策定し、商工会合併を市が主導し進めるべき。行政や議会の応援が必要だ。
- ふるさと納税の状況はどうか。

(委員の意見)

- 基幹産業は農業と言うものの、1日1億円には至っていない。多くの企業が厳しい状況が続いている。農・商・工業が一体となった産業振興条例が必要と感じている。
- 登米総合産業高校等若者が地域に残ってもらえる政策が必要。
- コロナの影響で、田舎志向が強まっているとの報道を見聞きし、若い人が戻って来るチャンスと感じている。大事なものは仕事。若い人は住み続けたいと思っている。企業誘致や活性化に力を入れたい。
- 朝ドラもチャンスととらえ、盛り上げて行きたい。
- 企業アンケートで街灯が少ない事が気になっている。事業者が気持ちよく事業できるように、市ができる事を取り組んでいきたい。コロナ禍、疫病を一緒に乗り越える。
- コロナ禍での事業継続に感謝。上杉鷹山公は、藩の財政難に荒地に紅花、沼に鯉を育て人々の生活を立て直した。市内では田は作り手がなく、商店は空く。しかし豊かな自然があり食糧がある。産業も人材もある。産業をしっかり支援し、税金で納めて頂くよう、市・議会も一緒になって取り組んでいく。
- 市内の産業を見ると、産業で若い人が働き、農業でシルバー世代が働いている現状。8,000ベクレル超の稲わら保管による農家負担が続いている。
- 産業の発展なくして市の発展はない。雇用通じ市民生活が安定するように。人材育成、まちづくりは人づくり。業種違っても一つの方向に向かっていくように。コロナで大変な時に産業を担って下さっていることに感謝に堪えない。
- 産業振興尽力に感謝。経営の安定、雇用の安定、若者の起業、後継者不足等に関して企業と共に、事業が安定するよう補助や支援策を考えて行きたい。

○所 見

今年の意見交換のテーマは「新型コロナウイルス対策について」であり、市が実施している経営維持交付金事業やプレミアムクーポン券事業をはじめ、市民の消費喚起につながる事業への評価が高いことが伺い知れた。

しかしながら、特に飲食店についてはコロナ感染症拡大防止対策に温度差があることから客足が戻らない現状があるとの意見もあった。「感染防止対策は自助努力である」という一方で、市からの感染対策支援の拡充を望む声もあった。飲食店等が感染対策を実施していることを示すために、県では感染防止対策ガイドラインの基準に基づいた感染対策実施ポスターを発行している。市としても「基準を満たしている店舗かどうか」が入店前に判断できるような工夫（認証マークなど）が必要ではないかとの提案もいただいた。

フリーディスカッションでは、中心拠点施設の再編構想や商工会の統合、ふるさと納税の状況など、多岐にわたる視点での質疑応答が展開された。

当委員会としては、本市の経済、雇用、納税等で多大な貢献をいただいている会員企業で組織している登米市産業振興会との意見交換会を、特に貴重な意見を頂ける場として捉え、今後も継続して行きたい。